

一劍通萬理

「いっけんばんりにつうず」

彦根東高等学校

この部旗は、現高体連剣道専門委員長の杉浦知康先生が、彦根東の剣道部顧問をしておられるとき、ある学年の卒業生と相談し、書道を指導しておられた小林巧先生に揮毫してもらわれて作られたものです。肉太に勢いよく一劍の二文字を大書し、続く三文字もその勢いに乗って一気に力強い筆致で書かれ、まるで墨蹟を見るような迫力のある部旗です。

この言葉は、「優れた剣道家による一振りの剣は、すべての道理に通じている」という意味で、言いかえると、「剣の道を学ぶということは、どんな物事にも通じる道理・筋道を学ぶということである」ということになるのではないかと考えています。

したがって、この言葉は「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」という全日本剣道連盟が制定した剣道の理念にも通じる言葉であると思います。

剣禅一如（剣と禅は一体）という言葉もありますが、古来、生と死の境で鍛錬をする剣道の修行と、禅の修行とは相通じるものがあったのでしょう。

柳生宗矩が沢庵和尚に、山岡鉄舟が滴水和尚に教えを受けるなど数多くの剣豪が禅僧の教導を受けたり、また、禅僧が剣にまつわる言葉を公案（師匠から与えられた修行のテーマ）として修行に励むこともあります。「一刀両断」「斬釘截鉄（ざんていせつてつ：クギや鉄をも切る技）」という言葉は柳生新陰流の極意を表す言葉ですが、元来は宋の時代に編纂された「碧巖録」という禅の語録にある言葉です。

このように禅と結びつきながら剣道は、剣を扱う技術だけではなく人の生きる道を教えるようになったと考えられます。

この「一劍通萬理」という言葉は先々代の滋賀県剣道連盟会長の宇野宗佑先生が揮毫を頼まれるとこの言葉を好んで書いておられました。